

瀬戸内国際芸術祭2013ロゴマーク



ロゴマーク

瀬戸内国際芸術祭2013

Setouchi Triennale 2013

和文／英文ロゴタイプ

アート・ディレクション

原研哉

デザイン・コンセプト

ロゴタイプのデザインは、島々の広がりと開放的なアートの展開性を感じさせるために、星座のように文字と文字の間をゆったりとあけている。これは文字群を点在する島々に見立てたもので、前回同様、ロゴタイプの考え方の基本である。ただし、英文名称はART SETOUCHI 2010からSETOUCHI TRIENNALE 2013へと切り替わっている。文字の間隔は、3段階用意している。大きなポスターには字間のたっぷりあいたロゴを用いて、海と島々の雄大な広がりを印象づける。開催地域も、中西讃の島々が加わったことによってさらに広域に広がることとなった。点在する島々のシルエットと、それを結ぶ航路のラインは、ロゴと連携してこのイベントの重要なキーヴィジュアルを形成する。上記のロゴと島々のヴィジュアルは、多様な局面に展開して、この芸術祭の特徴を人々に伝えていくことになる。

原研哉プロフィール

(はら けんや) 1958年生まれ。デザイナー。「もの」のデザインと同様に「こと」のデザインを重視して活動中。2000年に「RE-DESIGN—日常の21世紀」という展覧会を制作し、何気ない日常の文脈の中にこそ驚くべきデザインの資源があることを提示した。2002年に無印良品のアドバイザーボードのメンバーとなり、アートディレクションを開始する。2004年には「HAPTIC—五感の覚醒」と題する展覧会を制作、人間の感覚の中に大きなデザインの資源が眠っていることを示した。長野オリンピックの開・閉会式プログラムや、2005年愛知万博の公式ポスターを制作するなど、日本の文化に深く根ざした仕事も多い。2007年、2009年にはパリ・ミラノ・東京で「TOKYO FIBER—SENSEWARE 展」を、2008年から2009年にかけては「JAPAN CAR 展」をパリとロンドンの科学博物館で開催するなど、産業の潜在力を展覧会を通して可視化し、世界へと発信していくなど、活躍の場を広げている。2011年には北京を皮切りに「DESIGNING DESIGN 原研哉 2011 中国展」を巡回。近年は「観光」「家」「新素材」「移動」などから、新たな産業ヴィジョンの構想に注力している。

著書「デザインのデザイン」や「白」はアジア各国語版をはじめ多言語に翻訳されている。

日本デザインセンター代表取締役。武蔵野美術大学教授。日本デザインコミッティー理事長。日本グラフィックデザイナー協会副会長。

瀬戸内国際芸術祭 2013メイン・ポスター



アート・ディレクション | 原研哉

写真 | 上田義彦

デザイン・コンセプト | 島には風がある。瀬戸内の島々を吹きわたる爽快な風。これを人々は連絡船のデッキの上で体感することになる。穏やかで香しい潮風を全身に浴びながら、島々を移動していく時間こそ「瀬戸内国際芸術祭」の圧倒的な豊かさであり特色である。2013年のポスターのモチーフは「ひるがえる旗」である。海風を見事にはらんで、ちぎれそうにはためく旗の光景は、胸のすく光景であり、芸術祭に訪れる人々が共有・共感するイメージの原像としてふさわしいと考えた。すべての島々の名称が入った旗は、芸術祭を盛り上げる舞台道具として多数制作・配布され、会期中の海辺ではためき続ける予定である。ポスターは、春／夏／秋の3シーズンの空の色に呼応し、異なる色の旗を用いて3種類を製作する予定。上記は第一弾「春」のポスターで、透明感あふれるはためきを体現し、開催への期待感を鼓舞していく。

上田義彦プロフィール

(うへだ よしひこ) 1957 年生まれ。写真家。代表作に、ネイティブアメリカンの神聖な森を撮影した『Quinault』(京都書院、1993)、「山海塾」を主宰する前衛舞踏家・天児牛大のポートレート集『Amagatsu』(光琳社、1995)、吉本隆明や安岡章太郎といった著名な日本人 39 名と対峙したシリーズ『ポルトレ』(リトルモア、2003)、自身の家族に寄り添うようにカメラを向けた『at Home』(リトルモア、2006)、ミャンマーの僧院での白日夢のような時間の記録『YUME』(青幻舎、2010)、Leica で撮ったフランク・ロイド・ライト建築のポートフォリオ集『Frank Lloyd Wright』(エクスナレッジ、2003) などがある。2008 年以後、ParisPhoto などの国際アートフェアに出展。2010 年には Michael Hoppen Gallery (ロンドン、UK) および TAI gallery (サンタ・フェ、USA) にて展覧会を開催、「QUINAULT」シリーズを発表した。作品は、Kemper Museum of Contemporary Art (USA)、Permanent Public Art Collection of New Mexico Arts (USA)、Hermes International (FRA)、Stichting Art & Theatre, Amsterdam (NLD) などにそれぞれ収蔵されている。

近著には、屋久島で撮り下ろした新たな森の写真、新作「Materia」を 2012 年 2 月に発表。同名写真展を 2012. 2. 10 ~ 4. 10 まで行う。

国立科学博物館において縄文人の姿を撮り納めた「縄文人展」を開催。同時に写真集「JOMONESE」を発表。